

JIC インフォメーション

第211号 2021 年 01 月 20 日 臨時号
年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

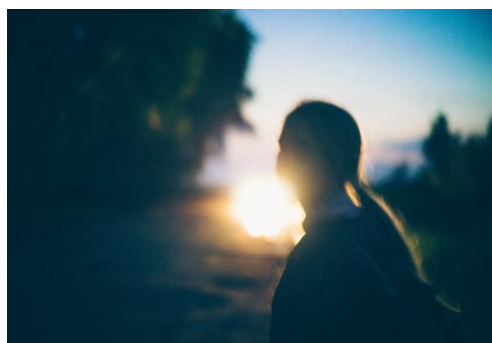
東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7 階 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



ロシア・旧ソ連 国際交流誌



写真／左上: キルギス日本語教育(2 頁)
左下: 関西日口学生連合セミナー(6 頁)
右上: ニコライ堂=東京復活大聖堂(8 頁)
右下: 日口友好愛知の会講演会「命のヴィザ再考」(12 頁)

<http://www.jic-web.co.jp>

キルギスで日本語を教える (3)

言葉の力を信じて……………倉谷 恵子……………2P

《日口交流情報》

オンラインで抑留者の墓参、など……………5P

関西日口学生連合「セミナー」……………田中 凌也……………6P

《講演録》 日口クラブ

ニコライ堂の歴史と活動……………対中 秀行……………8P

《講演録》 日口友好愛知の会

命のヴィザ再考～なぜ杉原千畝はユダヤ人を救ったか

……………稲葉 千晴……………12P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

倉谷恵子さんのキルギス・レポートは今回で最終回です。20 年 9 月からの予定で出発を遅らせていた 4 人の日本語教師ボランティアの皆さんは、結局 1 年延期して 21 年 9 月からキルギスに赴任することになりました。倉谷さんの 3 回にわたるレポートは、他のボランティア教師の皆さんにとって、また、キルギスだけでなく海外で日本語や日本文化を教える人たちにとっても、大変参考になる視点を多く提供しています。JIC としても倉谷さん報告を参考に、キルギスでの日本語教育をサポートする活動を強化し、継続していきたいと思います。(編集部)

キルギスで日本語を教える(3)

言葉の力を信じて

倉谷 恵子 (キルギス日本語教師ボランティア)

「期待しない、浮かれぬ、あきらめない」

キルギスでの日本語教師 2 年目の私の心構えだった。初年度は児童・生徒、学校のシステム、日常生活のすべてが未知で、アドバイスもお手本もない中で試行錯誤し、まさに五里霧中。ロシア語もおぼつかないまま泣き笑いを繰り返し、任期の 9 か月は怒涛のように過ぎていった。

その 9 か月を踏まえて、自分のペースを守りながら仕事をするために冒頭の 3 つの「～ない」を念頭に置いたのである。

期待しない ——

子どもたちに注意した後の「わかりました」という返事に期待してはいけない。1 回目のレポートにも記したが、日本語の授業中に低学年ならおしゃべりやお絵描きに夢中になったり、けんかをして走り回る。高学年ならスマートフォンやトランプ遊びに興じ、他の科目の教科書を開いて宿題をしたり、テスト中に公然とカンニングする。

目に余る場合、授業を中断してもクラス全員に対し本気で注意する。すると子どもたちは実に神妙な顔で「ごめんなさい」と謝る。「次回からはもうしません」という言葉を添えて。

しかしそんな言葉は信用できない。こちらが平生の表情に戻って授業を開始すると、低学年なら 5 分もたたずにおしゃべりは再開されるし、高学年だって次回の授業からまた素知らぬ顔でスマートフォンをのぞき始める。

宿題をしてくると期待してはいけない。少数の真面目な子ども以外は宿題の存在を忘れている。家で机に向かって勉強をする習慣が身についた子どもは少数で、教科書やノートを持ち帰らない子も多い。ホームステイや寮生活を通して子どもの日常生活を垣間見たが、彼らが家庭学習に割く時間は微々たるものだ。

予定通りに授業を進められると期待してはいけない。授業中に保健の先生から呼び出されて児童の半数が席を立っていたり、発表会のリハーサルの時間に重なったり、授業参観



ひらがなの練習をするかつての 1 年生。彼らも今は 3 年生になっている。成長した姿を見られないのが残念。

で別の授業に振り替えられたり…、予期せぬ理由で突然授業が中断されることがたまにある。その上、児童・生徒の転入・転出も多いため、クラス全員の学習進度がそろわず学習計画は立てにくい。

また日本では風邪などひいたこともない私も現地ではしばしば喉の痛みや咳に悩まされ、熱を出して授業を休まざるを得なかった。学校のシステムや子どもの問題だけでなく、自分自身すら予定通りに動かすことはむずかしい。

他にも具体的な「期待してはいけない」事項は山とある。しかしこの国の大人を見れば、静かに人の話に耳を傾け、机に向かって黙々と勉強や仕事をし、計画に従って忠実に動くという姿は非常に珍しい。子どもだけに「静かにしなさい。宿題をしなさい」と求めても効果は低いだろう。

浮かれぬ ——

子どもの親近感や日本人としての特別感に浮かれてはいけない。

日本人の存在はキルギスではまだ珍しいから、私たちは学校の中でも外でも少し特別な目で見られることが時々ある。

赴任早々は子どもたちも「外国人」の私たちを探ろうと興味津々で前を向いている。日本人のように遠慮をしないから、高学年なら私的な質問をたくさん投げかけてくるし、低学年はまとわりついて親愛の情を示す。こちらとしては自分たちに興味を持ってくれていると感じれば、まんざらではない。

しかし 2 か月、3 か月と時がたつと子どもたちは慣れてくる。当初からの問題児は別として、「良い子」の顔をしていた子どもまでが授業をなおざりにし、前述のように「期待してはいけない」授業態度をとり始めるのだ。

子どもたちや周囲の親しげな様子に気を良くしていると、後から失望感におそわれかねない。異国だからと浮かれず、児童・生徒や教員、学校外の人々とも適切な距離を保ち続けた方が無難だ。

あきらめない ——

期待しない、浮かれないのネガティブな「ない、ない」だけでは、それこそキルギスの子どもたちに日本語を教える意味は「ない」。

子どもは可能性のかたまりだ。良くも悪くも日々成長する。時に大人が予測しない反応を見せることもある。「期待しない、浮かれない」で失望を最小限にとどめつつ、努力することを「あきらめない」でいれば、小さな喜びや感動は必ず見つかる。

「あきらめなくて良かった」と感じた具体例を 2 つほど紹介したい。

小学 1 年生にひらがなを教える

ひとつ目は小学 1 年生にひらがなを教えたことだ。

初年度、1 年生の担当に決まった時、ひらがなを教えることには少々懐疑的だった。10 歳に満たない子どもの外国語学習は、文字よりも音に慣れることを優先すべきと考えていたし、母国語であるロシア語のアルファベットさえ満足に書けない子もいるのに、日本語の文字を教えれば混乱しかねないと思ったからだ。しかし幸か不幸か 1 年生から 10 年生まで等しくひらがなを教える方針になり、1 年生は 1 回の授業で 1 文字ずつ教えていくことになった。

45 分の授業のなかで毎回 15 分程度ひらがなの時間を確保し、まず 50 音すべてを私が黒板に書いて読ませた後、ノートにその日の字を 10 回ずつ書かせる。「は」の字を教える日なら「は」を 10 回書いた後、「はな」という言葉を教え、花の絵を描かせる。これだけの単純なルーチンだ。

しかし言うは易く行うは難し。「さあ書きましょう。黒板を見てください。いち、に、さん…」と大きな字で私が黒板にひらがなを書き、書き順を口にしてしている背後で、子どもたちは好き勝手な絵を描いたり、友達とおしゃべりをしたり、物差しでたたき合ったりの騒ぎである。それでも、じっとこちらを見つめる一握りの真面目な子どもの存在を信じて黒板

に向かう。

その後順番に席を見回り、ノートを開く気のない子どもにはノートを開かせ、「書けな〜い」と甘えてくる子どもには、「一緒に書きましょう」と言って手を握り 1 文字でも書かせる。やる気のある子は「書きました!」と元気よく手を上げてくるので、書いた字を確認して、形や書き順を直す。1 クラスは 20 名以上いるので、言うことを聞かない子をたしなめつつ、各自のノートに目を配っていると相当にエネルギーを使う。

面白いことに、日本語に触れたことのない外国人の子どもが書く字は日本人と明らかに違う部分が多い。まず書き順を守らない。守らないというより書き順の概念がない。下から上に、右から左に書く子どもがおどろくほど多い。例えば「う」や「え」ならばほぼ 9 割の子が上の点を最後に書き、ひどい場合には、10 回書きましようと言うと、先に 2 画目の下の部位だけを 10 個書き、最後に 1 画目の点をまとめて打っていく。

形の代表例としては「は」や「は」の 1 画目と 2 画目以降を左右に大きく離して書く場合が多い。「は」は「し」と「ま」の 2 文字を書いたかのように見える。「ゆ」と「わ」の区別がつかない字もあるし、「さ」の傾きが極端になって「け」に見えることもある。

おどろいたのは「す」や「む」で、くると円を描く部位を後から付け足して書く子が非常に多かった。文字を図形としてとらえると、そのような書き方が生まれるのだろう。授業中にちゃんと黒板を見て、書き順を頭に入ればそんな間違いは起こらないと思うが、最初は真面目に黒板を見てノートに写した子も、ノートだけを見て書いているうちに、いつの間にか自己流になってしまうらしい。まず目に書き順が示された既成の練習プリントも利用してみたが、日常的に日本語に触れていないキルギスの子どもたちには効果は薄く、口頭で何度も注意するしかなかった。

正しい形や書き順がなかなか身につかない様子を見ながら、「この子たちにひらがなの練習は無理だろう。やはり 1 年生には早すぎるのではないか」と思っていた。

新しい文字への好奇心

ところが 3、4 か月程たつと子どもたちが意外なことを言い出した。授業開始前に「今日はどの文字を書くの?」とうれしそうに聞いてくるようになったのだ。

また、あるクラスで新しい歌を教える予定だったのに、うるさくてとても教えられる雰囲気ではない日があり、お灸をすえるために「あ」から「こ」までのひらがなを復習で 10 回ずつ書くように指示をした。すると嫌がるどころかすんなりと書き始め、私が見回って各自の字を直していくのも「ああ、なるほど」という顔で素直に納得しながら書き直しているのだ。

単なる気まぐれかもしれない。だが子どもはひらがなを書

くことを嫌がってはならず、むしろ面白さに目覚めたようだった。字を確実に覚えているか、正しく書けるかは別として、次第に「ひらがなは教えるべきだ。子どもは新しい文字に対する好奇心を持っている」と考えるようになった。

この考えは 2 年目に赴任して確実なものになった。

初年度に 1 年生だった 2 年生を引き続き担当することになり、新学期に早速ひらがなの復習を開始すると、案の定、50 音を覚えている子どもは皆無だった。だが転入生を除き 1 年生の時から在籍している子どもの多くはノートを開くことを嫌がらず、むしろ率先して書きたがったから、「またゼロからスタートのつもりで、改めて教えよう」と 50 音の書き順や正しい形を何度も復習し、少しでも多く覚えられよう小テストも実施した。

冬休みが終わった 2 月、2 年生から 6 年生を対象に「美しい文字大会」が開かれた。正しくきれいな字を書いた生徒を学年別に 1 位から 3 位まで表彰するものだ。大会の目的はひらがなを覚えているか否かではなく、字の美しさを競うものなので手本を見ることも認められたが、私は担当する 2 年生にあえて手本を見ないで書かせた。

どんな結果になるだろう。それこそ「期待しない」で見守ったが、結果は十分だった。

新学期が始まって間もなく 2 年生だけに行った小テストでは全問正解の子どもは学年中 2 人しかおらず、あきらめ切った表情と空欄ばかりの解答用紙が多かったのが、この大会では難度を上げたにもかかわらず全問正解者が 10 人近くにまで増え、正解ではなくても回答欄をうめる努力をしている子が多数いたのだ。

さらに度々注意してきた「す」「は」「ゆ」などの文字の形を守って、しかも「す」を回答した生徒の全員が、くるとまるめる部位を後付けせずに一筆で書いていた。見限らずに繰り返し注意してきた甲斐があった。

外国人なら多少ひらがなの形も書き順も間違っ構わないという考え方もあるだろう。だが小学生はスポンジのような脳を持っていて、社会に出るまでに十分な時間がある。単なる記号としてひらがなを覚えるのではなく、文字の美しさを追求する日本の文化を伝えたい。

キルギスの子どもたちがひらがなを少しずつ習得していく様子を見ながら、文字を教えることを決して「あきらめない」という思いを強くした。

僕の後ろに道は出来る

「あきらめなくて良かった」ふたつ目は、日本の中学生に相当する 7、9 年生に高村光太郎の詩「道程」を教えた時のことだ。

教えるといっても文法を説明したりはしない。日本語の音に親しみ、詩に込められた意味をわずかでも汲み取ってもらえれば良かった。すでに 9 か月の任期も終盤に差しかった



美しい文字大会で 2 年生の優秀な児童が書いたひらがな。授業での注意を守ってきれいな字を書こうと努力している。

頃で、目に余る授業態度の彼らにも、何かひとつ位は心に残してほしいと思い、自分の好きな詩を伝えることにしたのだった。

「僕の前に道はない」の有名なフレーズで始まる詩の全体をロシア語に訳して意味を伝え、日本語の原詩を読み聞かせて復唱させた。

ある日、1 人ずつ私の後について詩を復唱するように指示した。前列の生徒から順番に当て、とある生徒の番になった。彼はいつもノートを用意せず話もほとんど聞かず、口を開けば冗談ばかり飛ばして、その日は机に突っ伏して寝たふりをしていた。私は構わず彼の名を呼んだ。

「はい、後について言いましょう。ぼくのまえにみちはない。」
生徒「——」。

私「ぼくのうしろにみちはある」、

生徒「——」、

私「ああしぜんよ ちちよ」、

生徒「——」

…、…、…、

私「このとおいどうていのため」、

生徒「——」。

彼は終始寝たふりを決め込んでいた。最後まで私 1 人の読誦だった。他の生徒が不思議そうな顔でこちらを見ていたが、私は叱ることなく、ただ彼の方を向いて詩を読み上げていた。

翌週、そのクラスへ行っておどろいた。

くだんの寝たふりの生徒が最前列に座り、ノートを広げてまっすぐ前を向いて授業を受け始めたのだ。ノートをとるのはもちろん、質問にも真面目に答えた。そして 5 月の最終授業までずっとその態度を守り、道程の詩の復習では他の生徒よりも大きな声で読み上げていた。

この生徒にどんな心境の変化があったのかは分からない。家庭や友人、クラス担任など気持ちを変えさせる要因は様々なにあったろう。だがもし、私が詩の復唱の際に、寝たふりをしているからと彼をあてずに順番を飛ばしたり、あるいは大きな声で叱っていたらどうだったろう。彼は授業態度をここまで改善したのだろうか。

もしかすると、道程の詩の持っている力が、何も言わず突っ伏していた彼の心に少し染み込んだから、こうして前を向くようになったのだろうか。まったく勝手な思い込みだが、そう信じたくなる程の生徒の変化だった。

私自身はこれまでに心を洗われるような文学作品との出会いを経験したことはない。だから生徒にも詩や物語をたくさん読んで人生を考えなさい、などとえらそうなことは言えない。

だが日本語を教えているうちに、言葉には力があり、それは母国語、外国語の枠を超えて伝わるのだと時々感じるようになった。幼いから、やる気がないからと伝えることをあきらめていたら、きっと言葉は力を発揮してくれない。

教わる側の児童・生徒の授業態度が満足いくものでなくても、教える側の教師の力量が多少足りなくても構わない。ただ、言葉の持つ力を信じてさえいれば、キルギスの子どもに日本語を教えるという仕事に確かな道ができていくはずだ。

日本語教師募集！

キルギスの 11 年生学校「ビリムカナ・カント校」

中央アジアの国・キルギスで日本語教師をやってみませんか。ビシケク郊外にある 11 年制学校「ビリムカナ・カント校」が、日本語教師を募集しています。

やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。給料は少なく、往復旅費も自前と、ほぼボランティアの条件ですが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

<条件>

受入校；ビリムカナ・カント校（私立の 11 年制学校）
所在地；ビシケク郊外（バスで約 30 分）のカント市
授業数；1 授業 40 分×1 日 3 授業×週 5 日

給 料；月額 150 ドル

宿 舎；ホームステイまたは学校寮（1 人部屋/無料）

期間；21 年 9 月～22 年 6 月（希望により変更可）

問合せ先；JIC 東京事務所 TEL:03-3355-7294

e-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

日口交流情報

オンラインで抑留者の墓参 日口友好愛知の会が開催

日口友好愛知の会が、シベリア抑留中に亡くなった日本人抑留者のオンライン墓参りを 10 月 18 日に開催しました。

日口友好愛知の会はシベリア中央部のクラスノヤルスクと長年交流を続けています。日本とクラスノヤルスクをネットでつなぎ、市内のニコライ墓地の日本人抑留者慰霊碑にクラスノヤルスク市職員のユーリヤ・ゴリャチェワさんらが線香と菊の花を供える様子を会議アプリ Zoom で中継しました。名古屋市内の事務所では僧籍を持つ窪田裕也さん（愛知の会副事務局長）が献花に合わせて読経し、遺族や会員らが犠牲者の冥福を祈りました。

このオンライン墓参りには、これまで別々に活動していた東京や北海道の遺族団体の人たちも参加し、それぞれの自宅などでパソコン画面に向かって手を合わせました。

クラスノヤルスクには第二次大戦後、約 1 万 5 千人の日本人兵士が抑留され、木材運搬や都市整備の強制労働で約 1 割の抑留者が死亡したとされています。

新型コロナの感染拡大で現地訪問が難しい中、4000km の距離を埋めて実現したオンライン墓参りは、今後、高齢化した抑留者や遺族・関係者がわざわざ現地まで行かなくともできる新しい墓参り方法として注目されます。

なお、愛知の会のこの取り組みは、中日新聞、毎日新聞などでも大きく報道されました（写真は、10 月 30 日の中日新聞の記事）。



日ロ美術工芸とマトリョーシカ S・ゴロジャーニナさんが講演

12 月 26 日(土)にオンライン連続講座「日露の美術工芸交流とマトリョーシカ」の最後を飾る第 4 回目の講演会が行われました。講師は、ロシア国立セルギエフ・ポサード文化財保護博物館の部長で歴史学者でもあるスヴェトラナ・ゴロジャーニナさん。「マトリョーシカの謎と七福神」という演題で、マトリョーシカが 19 世紀末にロシアで初めて作られた頃のエピソードや 1910 年代、20 年代のマトリョーシカの特徴などが報告されました。今ではロシアを代表する民芸品となったマトリョーシカですが、最初に作られた時から大量販売用と美術工芸品と言ってもよい少量オーダーメイドの両方が作られていたという話が興味深かったです。

なお、連続講座の内容は、ユーラシア研究第 63 号に特集として掲載されています。

<http://gunzoshu.cart.fc2.com/ca22/255/pr22-s/>

開国の地、下田の玉泉寺 ロシア人墓地が国史跡に

文部科学省・文化審議会は伊豆・下田市の国指定史跡・玉泉寺の境内にある「ロシア人墓地」を史跡に追加指定すると昨年 11 月に答申しました。

1854 年 11 月、ロシアのプチャーチン提督はディアナ号で下田に入港し、江戸幕府と日露和親条約の締結交渉を行いました。その交渉のさなか下田を襲った安政大地震の大津波でディアナ号は沈没、乗組員 4 名が命を落とし、開港地ごとにロシア人埋葬地を設けると決めた和親条約に基づいて玉泉寺に埋葬されました。

伊豆石で作られた高さ約 2.5m の立派な和型墓碑にはロシア語で乗組員の氏名と十字架が記されています。玉泉寺は日本で最初の米国総領事館として使われた本堂とペリー提督率いる黒船の乗組員 5 名の墓地が国指定史跡となっていました。が、これに今回ロシア人墓地が追加されたわけです。

なお、安政大地震で沈没したディアナ号に代わって、わが国初の洋式帆船「ヘダ号」が伊豆半島の戸田村で、ロシア人乗組員と日本人大工たちの共同作業によって建造されたエピソードはよく知られています。

詳細は、以下のサイトを参照してください。

戸田造船郷土資料博物館(沼津市戸田 2710-1)

<https://fuji3po.com/numazu/tourist/hedazosen.html>



私の原点

ノボシルスクでのホームステイ体験

田中 凌也(関西日ロ学生連合セーミチキ代表)

皆さん、こんにちは！

セーミチキというサークルで代表をしている田中凌也と申します。今回はご縁があり、JIC インフォメーションに記事を書かせていただく機会を頂きました(註 1)。前半では私たちのサークルのこれまでや、コロナ禍での活動をご紹介します。後半は私の実際の体験記です。少しでも活動のイメージが湧けば幸いです。

註 1: 私はウラジオストクへ 10 カ月間留学していたのですが、そのとき大変お世話になったのが JIC さんでした。今回はそんなご縁もあって書かせていただいています。

セーミチキの紹介

・どんな団体？

私たちセーミチキは関西の各大学から学生が集まり、ロシアの学生との交流を行っているサークルです。現在は京都大学、大阪大学、神戸大学、同志社大学などから 20 人ほどの学生が集まっています。

・セーミチキってどういう意味？

セーミチキはロシア語でヒマワリの種を意味する言葉です。この言葉を団体名に付けた理由はロシアの国花がヒマワリということもありますが、当団体が発展途上の団体だからです。私たちは日本ロシア学生交流会関西支部を前身として 2017 年に再出発しました。ヒマワリが種から花を咲かせるように当団体も発展していくため、日々様々な活動をしています。

・どういう活動をしているの？

私たち(というよりも私)が大事にしていることが「体験」です。そして、最もビッグな体験はなんといっても交換ホームステイです！私たちはリャザンとノボシルスクという 2 つの都市の学生と提携しており、日露それぞれ 5 名ほどの学生が夏に 2 週間程度のホームステイを行っています。その中で、お互いの文化や歴史などを身をもって学べます。私自身もノボシルスクで滞在し、今でも忘れられない体験となりました。これについては後半の方で書いているのでご覧いただくと幸いです。

2019 年はリャザンから大阪にロシア人学生が訪れ、大阪からはノボシルスクへ出発しました。そして、20 年はノボシルスクから大阪へ、大阪からリャザンへ…の予定だったの

ですが、泣く泣く中止となってしまいました。その代わりオンラインで日露双方から 15 人ほどの学生が集まり、音楽や祝日など様々なテーマについて話し合いました。

ただ、リアルでのホームステイに比べると「体験」と呼べるほどのものではありません。そこで、少しでもロシアでの体験をイメージできるような活動を行っています。例えば、夏には大阪市内のレストラン「カフェボーチカ」にて留学生や日本で働いているロシア人の方を交えて食事会を行いました。ロシア料理のうんちく（ウオッカのショットは必ず一気に、などなど...）をロシア人から直接聞いていると、留学していた頃の失敗が思い出されて懐かしい気持ちになってしまいました。

今現在はコロナの状況が芳しくありませんが、頃合いを見計らって今後も料理会を行っていきたくて考えています。その他、21 年 1 月には再びオンラインでリャザンやノボシビルスクの学生と交流を予定しています。これからの交換ホームステイに向けた下地になればと思っています。

・新規会員募集！

私たちは新たに会員を募集しています。ご興味を持たれた学生の方がいましたらお気軽に QR コードからご連絡いただければ幸いです。



ノボシビルスクでのホームステイ体験

さて、ここからは私自身の体験を書いてみたいと思います。私がホームステイに行ったのは 2017 年のことでした。訪れたのはノボシビルスク。ロシア語を始めて 1 年にも満たない頃でした。今回は 2 週間滞在した中で最も記憶に残っている 1 日を紹介します。

ノボシビルスクに来て何日か経った日でした。朝おそくに起きて 1 階に降りると、おばあちゃんがいつものようにカーシャ（註 2）を作ってくれていました。食べ終わると、オーリャ（ホームステイ先の女の子）が話しかけてきました。一通り観光名所も見て回ったから、今日は近所を探検しよう！とのこと。メンバーは 3 人。私、オーリャ、そして彼女の友達（これまたオーリャ。皆からは名字なのかクデリーナと呼ばれていました）です。早速出発して、いつもとは逆方向に歩いていきました。すると 10 分もしないうちに広大な草原が目に入ってきました。ノボシビルスクは 100 万都市ですが、私が滞在していたのはすこし郊外の田舎の村だったのです。そしてなんと！その草原には牛、鶏、そして羊らしき動物が放し飼いにされていました。これには驚きです。でもオーリャたちは気にも留めない様子。私がカメラをパシャパシャやっていると、早く早く！と急かすほどでした。そうしてぐんぐん奥へ進むと今度は断崖絶壁に出くわしました。ゴツゴツした岩肌と優雅に流れる小川。思わず息を飲みました。2 人



はどうやらこの景色を見せたかったようです。大自然に圧倒されていると、クデリーナが鞆から何かをおもむろに取り出しました。しゃぼん玉です。最近のマイブームだそう。それからしばらく崖に腰を掛けて、しゃぼん玉と川のせせらぎをのんびり楽しみました。

そうこうしている内に日が傾き始めました。急いできた道を戻り、村に着くころには太陽の面影は消えかけていました。ふと、オーリャが何かを見つけたようで、前の方へタタツと出てきました。ちょうどそのとき前から車がやってきます。ヘッドライトが彼女のブロンドを際立たせたこの瞬間は今でもよく思い出すほどです。

ルースカヤドゥシャー（Русская душа ロシア的精神の意）という言葉を目にしたことがあります。広い意味を持つ言葉ですが、このホームステイではその片鱗を味わえたような気がします。雄大な自然と人々の牧歌的な面。これもルースカヤドゥシャーのある部分ではないでしょうか。

註 2：ロシア風のおかゆ。作り方はいろいろありますが、ノボシビルスクではご飯を牛乳で炊いたものでした。ロシア料理は基本的に好きですが、カーシャだけはちょっと…。後にシベリア鉄道でも苦しめられることとなります。

10 月 21 日、お茶の水の連合会館で日ロクラブ（江田五月会長）の定例講演会が行われました。「ニコライ堂の歴史と活動」のテーマで、東京復活大聖堂教会（ニコライ堂）のミハイル対中秀行・司祭が講演され、その後徒歩 5 分ほど離れたところにあるニコライ堂を参加者全員で拝観しました。

東方教会・ロシア正教会の流れをくむ日本正教会の活動やニコライ堂の沿革について、日本ではあまり知られていません。対中司祭のお話は、日本での正教会の苦難の歴史やその考え方などを知る非常に良い機会になりました。

以下は、講演会の内容を文章化したものです。日ロクラブの了解を得て掲載させていただきます。（文責：編集部）

日ロクラブ講演会／2020 年 10 月 21 日

ニコライ堂の歴史と活動

対中 秀行（日本ハリストス正教会教団・東京復活大聖堂教会 司祭）

はじめに

東京復活大聖堂(通称:ニコライ堂)は日本ハリストス正教会の本山です。本日は、ニコライ堂の歴史と日本正教会の活動について、お話しさせていただきます。

今お話をしている連合会館からニコライ堂はもう目と鼻の先ですが、このお茶の水・駿河台界隈の方でも、ニコライ堂というのは一体どういう建物だろうと思っていらっしゃる方が結構多いと思います。ニコライ堂にマスコミ取材の方を入れたり、一般の方々の聖堂拝観を行ったりして、だんだんと地域の情報誌や旅行誌に載ったりするようになったのは、ごく最近のことです。これは正教会の歴史とも関わるのですが、どちらかといえばひっそりと活動していたようなところがあります。

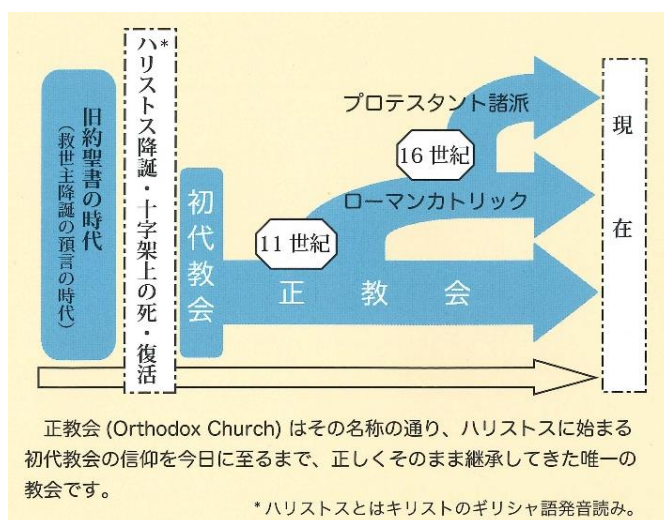
私は司祭になって約 20 年ですが、最初に赴任したのは北海道の釧路ハリストス正教会でした。釧路で 9 年間務めた後、岩手県の盛岡ハリストス正教会で 5 年務めさせていただき、その後東京復活大聖堂に参りました。

北海道東部には、釧路だけではなくて、中標津に上武佐教会、網走の近くの斜里に斜里教会があるのですが、そのエリアも受け持っていました。盛岡に着任すると、三陸の山田教会とか、秋田の北鹿教会、岩手県水沢の岩谷堂教会といった小さな教会も兼務しなければならぬ。ですから、農家や漁師さんの生活にもよく触れさせていただきました。そんなことで、地方での活動が長かったもので、実は海外の事情はあまりよく知りません。ロシアには一度、司祭二年目の頃に研修で修道院に行かさせていただきました。また神学生時代にギリシャにも行ったことがありますが、海外の事情はそんなに詳しくないことをご承知おきください。

I. 正教会と他のキリスト教との違い

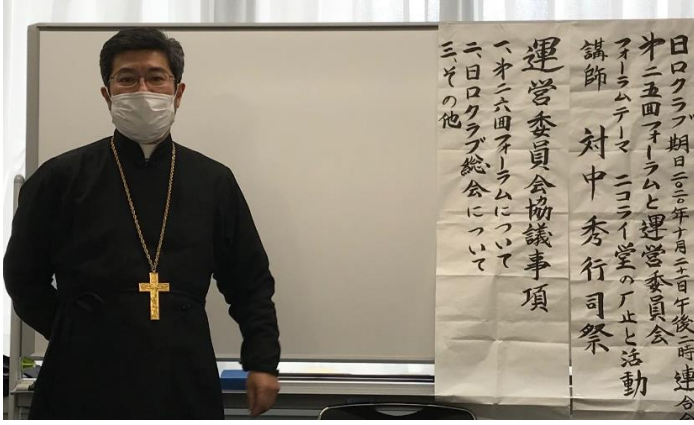
正教会とはどういうものか

はじめに、正教会とはどういうものか、大まかに説明させていただきます。パンフレットに書いてありますとおり、正教会(Orthodox Church)というのは、ハリストスに始まる初代教会の信仰を今日に至るまで、正しくそのまま継承してきた唯一の教会です。



(東京復活大聖堂教会のパンフレットより)

ハリストスというのは、これはイエス・キリストのことです。ギリシャ語読みで、イエス・キリストのことをイェスス・ハリストスと言います。一般的に呼ばれるイエス・キリストというのは中国語の「耶穌基督」から翻訳された読み方で、中世の日本でこれがイエス・キリストと音訳され、カトリック教会やプロテスタントの教会はイエス・キリストを使っておりますけれども、私たち正教会ではギリシャ語読みのイェスス・ハリストスと呼んでいます。これは明治時代に日本語に翻訳されたものです。



聖書(旧約聖書と新約聖書)の言葉を信じ、ハリストスの降誕、十字架上の死と復活を認め、三位一体の神を信仰するという点では、正教会もカトリックもプロテスタントも同じです。古代ローマ時代のキリスト教(初代教会)から、11 世紀に正教会とローマ・カトリックが分かれ、ローマ・カトリックから 16 世紀にプロテスタント諸派が分かれて現代に至っているというのが、大きな流れです。

西方教会と東方教会

日本ではキリスト教というと圧倒的に信徒が多いのはカトリックとプロテスタントです。カトリック教会やプロテスタント諸教会は「西方教会」、私たち正教会は「東方教会」になります。

ですから、カトリックとプロテスタントが宗教改革で分かれる以前に、正教会とカトリックが分かれたということです。歴史書には、1054 年にギリシャ正教会とローマ・カトリック教会に分裂したと書かれています。世界史をひもとくと、ローマ帝国はゲルマン民族の流入で混乱し、395 年に西ローマ帝国と東ローマ帝国に分裂します。西ローマ帝国は 476 年に滅亡しますが、東ローマ帝国はオスマン帝国にコンスタンチノーポリが占領される(1454 年)まで、15 世紀まで存続しました。ということで、東と西で国情が相当違ってきて、それが正教会とカトリック教会の違い、別々の歩みになっていきます。

ですから、キリスト教というのは、初代キリスト教会の約 1000 年間は一つだったんですね。グノーシスとかアリウス派とか、小さな分派はあったにしても、概ね一致していたのですけれども、東西ローマ帝国の興亡の中で、正教会とカトリック教会に分かれていったわけです。

カトリック、プロテスタントとの違い

カトリック教会との大きな違いは、カトリックはローマ法王を頂点とし国を超えてローマ法王が全世界に監督権を持つという組織になっているのですが、正教会はそういう形をとっておらず、それぞれの民族や国家単位で教会が形成されています。正教が主流の国はギリシャ、ロシア、ブルガリア、ルーマニア、セルビアなどです。こういった国には総主教がおります。主教の中でも総主教は最高位ですが、これは独立教会のリーダーです。正教会の中には、独立教会と自治教会、伝道教会があつて、信徒が何百万、何千万人というような国は独立教会で総主教がいるという

ことになります(必ずしもそうでない場合もある)。

日本の正教会は自治教会という位置づけで、信徒数は 1 万人ぐらいです。日本人の主教が 2 人おります。

一方、プロテスタントは、これはよく知られているように、カトリックに対するプロテスト(抗議)から生まれました。「聖書のみ」を信仰の源として、カトリックのような位階制を認めません。聖書を介して個々人が神と直接つながるという考え方です。

話は前後しますが、東方教会と西方のカトリック、プロテスタントとの大きな違いは、正教会は西欧のルネッサンスも宗教改革も経験していないキリスト教だということ。日本では一般にキリスト教は西洋のものだと考えられていますが、西ヨーロッパだけを見ていると、正教会というのはイメージが全く外れてしまいます。一部のカトリックの神学者たちは、正教会は遅れた後進国の宗教であるかのような見方をするのですが、そもそもイエス・キリストが十字架上の死と復活をとげた、この新約聖書の教えから信仰を出発させている点では全く同じで、むしろその原点を強調しています。もっと言うならイエス・キリスト自身、西洋の出身ではありません。

カトリックとプロテスタントは激しく対立して、サン・バルテルミの虐殺で知られるユグノー戦争(1562 年～1598 年)など非常に大きな宗教戦争を度々起こしています。カトリックの宣教師は大航海時代のスペインやポルトガルの植民地獲得の先兵となった面があります。中南米ではインカ帝国やマヤ文明がわずか数百人のスペイン艦隊に滅ぼされ、根こそぎ文化も破壊されました。しかし、東方正教会はそれぞれの国の言葉や文化を尊重して布教しようという考え方をとっています。

正教会の人間観

正教会の人間観は次のようなものです。

「人間は神の似姿として造られましたが、罪に陥り、永遠の命である神との一致を損なったために死ぬものとなりました。そのような人間に再び神との一致の道を開いてくださったのがイエス・キリストです。人間は神に似たものへと限りなく成長するように促されています。」(日本正教会のパンフレットより)

イエス・キリストの復活はまさにそのことを教えており、さらにもどると旧約聖書の創世記にアダムとイヴが楽園に住まわせられていたように、本来、神に祝福されて人間というのは造られたのであって、そこに立ち戻っていくというのが、私たちの信仰の目的なのです。この「人間というのは神の似姿として造られた」ということを強調するのが正教会の特徴です。これに対して西方教会はどちらかというと原罪を強調します。繰り返しますが、人間は本来神に似た存在なのに、それがアダムとイヴの楽園追放によって破損してしまった。だから本来の神の似姿を取り戻そうというのが正教会の人間観です。

もう一つ、正教会で特徴的なものに、イコン(聖像画)があります。イコンとは、キリストや聖人、聖書の場面などを描いた平面画です。正教会に立体像はありません。これは偶像礼拝につながるので禁じられています。

この後ニコライ堂の見学をしていただきますが、教会内には平面のアイコンがたくさん掲げられています。これは、目に見えない神様がイエス・キリストという人となった。人となったということは目に見える方となった。だから描くことができるのです。人間というのは、本来神の似姿をもった、神に祝福された存在として造られました。その神の似姿をあらわすという意味もアイコンにはあります。

人間の生き方として神の似姿を回復する営み

正教会の信仰の伝え方は、どちらかというと思想として教えるを説くということではなくて、人間の生き方として見せるというスタイルですね。ですから、修道院をすごく大切にしています。ロシアの正教会の本山は、モスクワ郊外のセルギエフ・ポサードですが、そこでは 300 人ぐらいの修道士が修道院で生活をしています。修道院の生活というのは、人間が失った神の似姿を回復する営みでもあるのです。修道士は生涯独身です。

聖職者について説明しますと、カトリックの神父さんたちはほとんどの人が独身です。私たち正教会では、司祭の中でも独身者と妻帯者の両方がいます。プロテスタントはほとんど家族持ちです。プロテスタントは信者一人一人が聖書を読んで信仰を持つべきだという考えですから修道院も否定しています。

私は司祭ですが、妻がおります。正教会では司祭になる前に身分を決めなければならない。司祭になる時に、相手がいる場合にはそのまま結婚を先にして、そのあと司祭に任命する。独身の人は司祭に任命されたら一生独身を通さなければいけない。そういう違いがあります。

正教会には、ある一定の国や地域(主教区)を監督する主教、主教区内の個別の教会を管轄する司祭、様々な教会活動を補佐する輔祭がいます。司祭と輔祭には妻帯者と独身者の両方ありますが、主教は修道士から選ばれ独身となります。高位聖職者には独身者しかねないという仕組みです。これは教会の長い伝統の中で培われたもので、その背景には世襲だの相続だのという世俗の問題を避けるという教会の知恵があります。家族を持ってしまうとそういう問題が起きてしまう。ですから、世俗を捨てた人間が教会を指導するという仕組みになっているのですね。

Ⅱ. ニコライ堂(東京復活大聖堂)の沿革

ニコライ堂(東京復活大聖堂)の沿革に話を進めさせていただきます。ニコライ堂は約 20 年前に修復されたのですが、その時の記念誌をもとに資料を作成しました。ちょっと読み上げます。「正教を伝道するためにロシアから日本に渡った亜使徒聖ニコライは、最初の伝道地・函館を 1872 年 1 月に発ち上京。同年 9 月、神田駿河台にあった定火消の役宅跡地を購入のうえ、伝道の新たな拠点として『本会』を設置した。」(資料「日本ハリストス正教会教団『東京復活大聖堂』沿革」)

聖ニコライの伝道

ニコライ・カサートキン(カサートキン)は幕末の 1861 年に函館のロシア領事



ニコライ堂(東京復活大聖堂)

館付き司祭として 25 歳で来日しました。禁教令がまだ廃されてなかったもので、8 年間ぐらいは日本語の勉強や日本文化の研究を熱心に行いました。これも正教の理念にかなっているのですね。カトリック教会は近代までラテン語の典礼や儀式をどこの国でも当たり前に行っていましたが、正教会の場合はギリシャからロシアに伝わる時はロシア語に翻訳し、ロシアから日本に来た時は日本語に翻訳して、その現地の言葉でお祈りされるべきだという考えです。正教会で宗教改革が起こらなかったのは、絶対権力を持つ教皇がいなかったこともありますが、母国語での礼拝を早くからやっていたので、そういう反発は起きなかったわけですね。

ニコライは漢文学者の中井木菟麻呂(なかい・つぐまろ)の助けを得て、聖書や聖伝、祈祷書を、時には新しい用語を作りながら翻訳しました。ただ早くから日本語にしすぎたために、正教会では明治時代の言葉が今でも使われています(笑)。中学生や高校生が聞いてもちょっと理解にくいという問題があります。

また、ニコライは日本の仏教や神道を非常によく研究しました。これは講談社学術文庫の「ニコライの見た幕末日本」という本に詳しく書かれています。ニコライの教えを受けて日本人で最初の司祭になった沢辺琢磨という人は、坂本竜馬の従兄弟なのですが、この人はもとは神社の宮司さんでした。このようにニコライは最初から、ロシア人は種を蒔くけれども、日本人でこれは運営されるべきだというビジョンを持ってやっていた。当時『露探』とか言われて、ロシアのスパイではないかと警戒もされたのですが、ニコライとしては、日本人のイイスス・ハリストスの教会を作るという理念に基づいていたのですね。

東京に居を移してからニコライの伝道は目覚ましく、1880 年

までに東京各地に 10 の教会が新設され、正教会は日本で一時は 3 万人の信者を擁するようになりました。

1891 年(明治 24 年)に最初のニコライ堂建立

ニコライ堂の建設は、1884 年に着工し 1891 年に竣工。同年 3 月 8 日、主イイスス・ハリストスの復活を記憶する「復活大聖堂」として成聖されました。原設計はミハイル・シチュールポフというロシア人です。実施設計は当時東京に設計事務所を開いていたイギリス人のジョサイア・コンドルです。ただ、原設計図は見つかっておらず、原設計と実施設計の間でどれほどの改変が行われたかは分かっていません。

大聖堂の建設は、ロシアからの寄付と日本人信徒の献金とによって無事に竣工したものの、日本の正教会はそれから度重なる試練を経験することとなります。

1912 年にニコライ大主教が永眠し、1917 年にはロシア革命が起こり、ロシアはソビエト時代を迎えます。共産主義政権下で、母教会であるロシア正教会が弾圧の対象となったわけです。こうして日本の正教会は生まれたばかりの状態のまま母教会からの支援を失ってしまいます。

さらには 1923 年(大正 12 年)に関東大震災が発生します。大地震でニコライ堂の木造の鐘楼部分が倒壊して上部ドームが崩落。全体が火災に見舞われ、土台と煉瓦壁のみが残されました。

1929 年(昭和 4 年)ニコライ堂復興

ニコライ師の後継者・セルギイ府主教は、困難な情勢下に起きた大震災にもかかわらず、聖堂だけでなく信徒たちの精神面においても復興を図るべく指導にあたりました。大聖堂が復興するまでの間は、四国・松山から聖堂を移築して礼拝を行いました。

大聖堂の復興工事は 1927 年 9 月に起工し、1929 年 11 月 30 日に終了。同年 12 月 15 日に復興された大聖堂の正聖式が行われました。ですから、今のニコライ堂の姿になったのは昭和 4 年ということになります。ドームの高さは十字架を含めて 38m です。鐘楼の鐘は、函館教会から取り寄せた大鐘とポーランドで铸造された 5 個の鐘が長らく使われていたのですが、2018 年 9 月にロシア製の鐘が大幅に増え、新たな「ニコライの鐘」となって今日に至っています。

大聖堂の建立時にはロシアからの義捐金に多くを拠ったのですが、関東大震災からの復興に際しては、もちろん世界各地の正教会からの寄付もあったのですが、ほとんどは日本人信徒が主体で再建しました。

戦争による受難

日本の正教会は、日露戦争、ロシア革命などで悪化する日露・日ソ関係の影響や、それに伴う偏見を蒙ってきた歴史があります。また、第二次世界大戦のさなかには、国内の各宗教団体への政府の統制が厳しくなり、日本の正教会も例外なく様々な圧力を受けました。大戦中にセルギイ府主教は退任を余儀なくされ、特別高等警察(いわゆる特高)によって 40 日拘留されて、釈放されたもののほどなく 1945 年の 8 月 10 日、終戦の 5 日前に

永眠されました。

当時、宗教団体法で外国人を『統治者』にしてはならないという規定があり、セルギイ府主教は退かされたわけです。戦時中は軍部の統制を受け、教会内部も混乱しました。日露戦争から第 2 次世界大戦が終わるまでの間に、日本の正教会の信者は 3 分の 1 くらいに減ってしまいました。

しかし大戦中、幸いにも大聖堂や境内地の建物は空襲の被害を免れました。1945 年 3 月 8 日の東京大空襲の際には町会の要望に応え、大聖堂が犠牲者(死体)の一時安置所として開放されました。

戦後は、日本の正教会は GHQ(連合軍総司令部)の意向によりアメリカから主教を迎え、信仰生活を継続します。アメリカにはギリシャ系の正教会やロシア系の正教会等があつて、アメリカ人主教といってもロシア系正教会の主教です。ただ、これも非常に変則的な統治で、自分たちはロシアから伝えられた教会なのに何故アメリカから主教を呼ばなくてはならないんだということで、日本の正教会は混乱しました。今のニコライ堂にステンドグラスが入っているのは、実はもともとステンドグラスはなかったのですが、アメリカ人主教さんの時にこれが入ったということです。

重要文化財としてのニコライ堂

1962 年 3 月にニコライ堂(東京復活大聖堂)は、日本初の本格的なビザンティン様式の教会建築として、国の重要文化財に指定されました。

1970 年に日本正教会は「自治正教会」としてロシア正教会・モスクワ総主教庁から承認を受けるとともに、東京復活大聖堂は日本正教会の首座主教座教会となりました。

1972 年にはフェオドシイ永島新二府主教が首座主教として着座し、1999 年に永眠するまで長く日本正教会の指導にあたりました(府主教というのは東京府の時代の呼び名のなごりですが、首都の主教という意味です)。

このフェオドシイ府主教の時に、ニコライ堂の修復が行われました。準備期間を含めると約 9 年の歳月を費やして 1998 年に補修工事が完工しました。国内の重要文化財建築物のほとんどは木造で、石造建築物の中では東京復活大聖堂が一番古く、石造文化財修復の先駆けとなりました。

こうしてニコライ堂(東京復活大聖堂)は、今日の姿となったわけです。

新型コロナウイルスの影響で現在は中止しておりますが、毎日曜日の礼拝を含め、信徒でない方でも聖堂拝観は可能です。コロナが終息しましたら、是非見学にお越しください。

＊第 1 部「正教会と他のキリスト教との違い」は、講演後の質疑応答も加味して文章化しました(編集部)

<参考文献>

「宣教師ニコライと明治日本」中村健之助著(岩波新書)

「ニコライ堂小史」長縄光男著(東洋書店)

11 月 14 日、名古屋国鉄会館にて、日ロ友好愛知の会の講演会が行われました。今年は『命のヴィザ』で多くのユダヤ人難民を救った外交官・杉原千畝の生誕 120 年にあたり、名城大学の稲葉千晴教授が「命のヴィザ再考」と題して講演されました。第二次大戦が始まった直後のポーランドとリトアニアを巡る情勢、ドイツとソ連の狭間で翻弄されたユダヤ人難民の苦境、杉原千畝がヴィザ発給に至った経緯などを、歴史事実にもとづいて検証したお話は、日本で一般的に流布されている杉原千畝像と命のヴィザについて新たな角度から光を当てるものでした。

以下、当日の講演録を日ロ友好愛知の会および稲葉千晴先生の了解を得て、掲載させていただきます。(編集部)



日ロ友好愛知の会／2020 年 11 月 14 日

命のヴィザ再考～なぜ杉原千畝はユダヤ人を救ったか

稲葉 千晴（名城大学 都市情報学部 教授）

「有徳の人」（諸国民の中の正義の人）

今年 7 月に「ヤド・ヴァシェームの丘に～ホロコーストからユダヤ人を救った人々」という本を出版しました。ヤド・ヴァシェームは「記念の場所」を意味するヘブライ語で、イスラエルの首都エルサレムにあるユダヤ人犠牲者追悼施設のことです（正式名称；「世界ホロコースト追悼センター」）。この本では「命のヴィザ」で多くのユダヤ人を助けた外交官・杉原千畝を含めて、さまざまなユダヤ人救出劇(32 の事例)を紹介しました。

イスラエル政府は、ホロコースト(大量虐殺)からユダヤ人を救った各国の人を「Righteous Among the Nations 諸国民の中の正義の人」と呼んで顕彰していますが、私はこれを「有徳の人」と訳しています。

杉原千畝はこの「諸国民の中の正義の人」＝「有徳の人」賞を 1985 年にイスラエル政府から授与されたわけですが、でも、「有徳の人」というのはどういう人のことを言うのか。

いろいろな方がこの「有徳の人」賞をもらうために登録しようとしてきたのですが、実際問題としてはなかなか難しいのです。なぜ難しいかというと、ただユダヤ人を救っただけではダメなのです。単にヴィザを出したり匿ったりしただけではこの賞をもらえな

いのです。

まずは、助けたユダヤ人からお金や報酬をもらってはいけない(無償の行為であること)。だから自分の利益のためにユダヤ人を救ったのではダメなのです。それから大事なことは、自分でリスクを冒して救った人でないと認定されないのです。リスクを冒したというのは、例えばドイツ占領下のポーランドでは当時ユダヤ人を匿った人は死刑なんですね。ユダヤ人を救ったら自分の身も危ない。匿った場所が自分の家だと家族まで殺されてしまう。そういうこともあって、ユダヤ人を救うというのは非常に危険で困難なことだったのです。杉原の場合は、外交官の職を失うリスクを冒してヴィザを発給したので認定されたということになっております。この点については後ほど話をしたいと思います。

当時のヨーロッパの人口は約 5 億人です。現在までに分かっている「有徳の人」は 27000 人余りで、日本人では杉原千畝ただ一人です。当時の人口比で考えると、危機に瀕していたユダヤ人に身命を賭して救いの手を差し伸べた人は 2 万人に一人という少なさなのです(実は私、この本に「2 千人に一人」と書いたんですね。新聞記者さんから電話がかかってきて「2 万人に一

人じゃないですか」と言われて、間違いに気づきました。2 万人に一人でございました)。とにかく、自分の身を危険に曝すわけですから、ユダヤ人を助けた人は非常に稀な存在でした。

歴史を検証してみると...、「命のヴィザ再考」

ご存じの通り愛知県では、杉原の母校である旧制第五中学校(現愛知県立瑞陵高校)の門前に「杉原千畝広場:センポ・スギハラ・メモリアル」を設置して顕彰事業を行っています。私も展示パネルの監修に協力し、また中学校の社会科副教材の編纂や大学での「杉原千畝ボランティア・ガイド育成プログラム」などを行ってきました。それだけでなく杉原の業績を正確に理解するために、研究を行っております。

調べてみると、杉原の「命のヴィザ」のストーリーというのは、すごく不自然なんですね。これまで映画で流されたり、学校で教えられたりしてきた杉原千畝のお話というのは、歴史事実に照らしてみると何か変なのです。最初は私も何が不自然なのかわからなかったのですが、検証してみるといろいろな事実が浮かび上がってきました。

これまでの日本における杉原千畝像

これまでの日本における杉原千畝像というのは、以下の様なものです。

- ・ポーランドでホロコースト(ユダヤ人大量虐殺)の嵐が吹き荒れた。アウシュビッツをはじめとする絶滅収容所があったポーランドで、600 万人のユダヤ人がヒトラーとナチスドイツによって毒ガスで殺された。
- ・そのポーランドから、第二次大戦が始まって虐殺の危機から逃れるために、ユダヤ人たちは中立国であるリトアニアに逃げてきた。
- ・ユダヤ難民たちに対して、杉原は人道的な観点から外務省の命令に背いて、1940 年夏に日本の通過ヴィザを大量に発給した。
- ・そして、杉原千畝は 6000 人のユダヤ人を救った。だから「6 千人の命のヴィザ」なんだと。

杉原千畝が発給したヴィザの数は、外務省に杉原が報告した記録では 2140 通ということになっています。2140 通のヴィザを出したのに、なぜ 6000 人なのか。後で説明しますが、1 枚のヴィザに家族の名前も書き込めたから、1 枚で平均 3 人として $2140 \times 3 = \text{約 } 6000$ 人、こういう計算なんですね。しかし、実際にヴィザの枚数を数えた人はいないし、何人助かったか数えた人もいないのです。正確な数はいまだに分かっておりません。しかし、多くのユダヤ人を救ったことは事実ですから、「有徳の人」賞を 1985 年に授与されて、杉原千畝は人道外交官として高い評価を受けているわけです。

これは奥さんの杉原幸子さんが 1990 年に出版された「6 千人の命のビザ」という本があり、それに基づいて 1992 年に加藤剛が主演した杉原千畝のテレビ映画が放映されました。さらに 10

年ほど後にもう一度テレビ番組が作られて、2015 年には「杉原千畝・スギハラチウネ」という映画が作られた。こうして、今見たような杉原千畝と命のヴィザのストーリーが定着していったわけです。

2018 年からは小学校の道德の教科書で杉原千畝が取り上げられ、2019 年からは中学校の教科書でも取り上げられております。ということで、杉原は日本で唯一の「人道的な外交官」ということで、広く知られるようになっていきます。

杉原幸子「6 千人の命のビザ」への疑問

では、どこが不自然なのか。実は、1940 年の夏には、まだポーランドに絶滅収容所は作られておりません。絶滅収容所が出来るのは 42 年のバンゼー会議でナチスがユダヤ人大量虐殺を決定してからなのです。つまり、杉原千畝がユダヤ人を救った 40 年の夏にはまだ大量虐殺は起きていないのです。ですから、ユダヤ人がリトアニアに逃げて来たのは、虐殺の危険に曝されてのものではなかったわけです。第二次大戦とユダヤ人難民というと、私たちは「600 万人もの大量虐殺＝ホロコースト」をすぐに想起しますが、詳しく年代別に見てみると、ちょっと歴史的事実に合わないのではないかとということがまず第一点です。

第二点は、リトアニアはロシア革命の翌年、1918 年に独立します。帝政ロシアの支配から脱して 1940 年 7 月半ばにソ連に併合されるまで自由な独立国でした。第二次世界大戦は 1939 年 9 月にドイツがポーランドに侵攻して始まるのですが、杉原千畝がヴィザを発給する時点でリトアニアはまだ戦火にまみれておりません。ホロコーストも起きていません。

リトアニアでホロコーストが起きるのは、1941 年 6 月 22 日に独ソ戦が始まった後です。独ソ戦の開始後 1 週間でリトアニアはドイツに占領されてしまいます。ドイツ占領の直前からすでにリトアニア人の反ユダヤ勢力がユダヤ人狩りを行い、虐殺を始めます。41 年 6 月末からリトアニアはドイツ軍に占領され、44 年 9 月ごろにソ連軍によって解放されるのですが、その間にリトアニアにいたユダヤ人の 90%以上が殺されてしまいました。ということで、リトアニアでも大量虐殺は行われたのですけれども、40 年 7 月から 8 月の段階では誰一人翌年にドイツがソ連と戦争を始めることを知っていた人はいないのです。ソ連のスターリンですら独ソ戦を予想していなかったのですから、杉原も当然予測できたはずがないわけです。

だから、1940 年夏の段階でリトアニアにいるユダヤ人たちが「ホロコーストに遭うから助けてくれ!」と杉原に救いを求めたということはありません。杉原幸子さんが「6 千人の命のビザ」で書いたストーリーは、実は正しくなかったのです。

共産主義からの逃亡

では、実際のところはどうかだったのか。ストレルツォーフとというリトアニア人の研究者と、コーネルというイスラエルの研究者がおります。この 2 人の研究で新たな事実が明らかになりまし

た。



地図を見てください。東をソ連、西をドイツ、南をスロバキアとルーマニア、北を東プロイセン(ドイツ領)とリトアニアに囲まれているのが当時のポーランド領です。1939 年 9 月 1 日に第二次世界大戦が勃発すると、ポーランドの西半分をドイツが占領して併合します。続いて東ポーランドをソ連が併合します。リトアニアは東ポーランドの北側ですね。このリトアニアにポーランドから難民が逃れてきた。なぜかという、西からドイツが攻め込み、東からソ連が攻め込んで、ポーランドは東西で戦争状態になったわけです。しかし、リトアニアとは戦争していませんから、ポーランド人はリトアニアに逃げれば戦火に遭わずにすむ。ですからリトアニアに逃げたわけです。

リトアニアに逃げたポーランドからの難民はどういう人たちだったか。

難民とは言いますが、実はポーランド軍の将兵が逃げてくるわけですね。ドイツ軍、ソ連軍の方が強いので、まともに戦ったらやられてしまう。ということで、第一にポーランド軍の将兵たちがリトアニアに逃げ込みました。

第二は農民です。当時ドイツ領だった東プロイセンの南東にリトアニアと挟まれた地域があります。ここはスヴァウキ地方といってポーランド領だったのですが、ドイツが占領して、占領地の農地をすべてドイツ人の入植者に分け与えてしまった。ここに住んでいたポーランド人農民は土地を取り上げられ、リトアニアに追放されたのです。逃げたわけではありません。「帰ってきたら殺すぞ」と脅迫されて、強制的に排除されてしまったわけです。

三番目がユダヤ人神学生です。ポーランドはカトリックの国です。ポーランド人の大半はカトリック信者なんですけれども、第二次世界大戦までヨーロッパでユダヤ人の人口が一番多かった国はポーランドなのです。ポーランドの人口約 3000 万人のうち 10 人に 1 人がユダヤ人でした。

ユダヤ人とは？

ここで、ユダヤ人について説明しておく、ユダヤ人というのは人種ではないのです。ユダヤ人は、本来は髪が黒くて彫りの深い中東系の顔をしていたのですが、ディアスポラ(離散)といって、約 2000 年前にパレスチナの地から追放され、ローマの支配やスペインの支配から逃れて、ヨーロッパ全土に散らばりました。その過程で混血が進み、外見はもう普通のヨーロッパ人と全く変わりません。中東系の顔を残している人は全体の 3 分の 1 くらいではないでしょうか。あとの 3 分の 2 はもう全くヨーロッパ人です。「ユダヤ人は顔を見たらわかる」と言う人もいますが、実際には分かりません。

ユダヤ人・ユダヤ民族というのは信仰なんですね。ユダヤ教を信じている人々の集団がユダヤ人・ユダヤ民族と呼ばれます。

ヒトラーのナチス党が政権を握ったドイツでユダヤ人の迫害が始まります。「私はユダヤ教の信者です」と言ったら、職を追われたり逮捕されたりする。だから、みんな「私はユダヤ教徒ではありません」と言いますよね。そこでヒトラーが考えたのは教会税のチェックです。キリスト教徒はキリスト教会に所属していて、戦前のドイツでは教会が地方税を徴収していました。住民台帳を教会が管理して、教会税という地方税をとっていた。ユダヤ教徒はキリスト教会に属していないから教会税は払わない。彼らは市民税を払っていたのです。したがって、教会税を払っていない者が基本的にユダヤ人であるというわけです。また、キリスト教徒で教会税を払っていても、4 人の祖父母のうち 3 人以上がユダヤ人だったらこれは自動的にユダヤ人とみなす。ユダヤ人と結婚している者、その結婚によって生れた者は、本人の信仰と関係なくはユダヤ人とみなす。このように 1935 年のニュールンベルグ法で規定したものですから、ユダヤ人を宗教だけではなく「血統」や「人種」で区別するという考えが広まったんですね。

限られた人しか逃げられなかった

そうした中で、当時ポーランドに住んでいたユダヤ人はどうしたかと言うと、実は彼らは逃げなかったのです。戦前のポーランドには 300 万人以上のユダヤ人がいました。西ポーランドがドイツに占領され、東ポーランドがソ連に占領されても、ほとんどのユダヤ人は逃げませんでした。というより、逃げるのができなかった。当時の人口の 9 割以上は農民です。農民は基本的に土地に縛り付けられていて、旅行することを考えません。パスポートも持っていないのです。しかも、ドイツ軍とソ連軍が戦車で攻めて来て、あっという間に占領してしまった。住民たちはどうすることもできず、ほとんどの人は逃げることもできないまま占領下に入ってしまったわけです。

政府の高官や実業家、軍の将兵、身軽な独身者など移動が可能だった人だけが逃げるのができた。国境近くの人なら歩いて逃げるのができたかもしれないですが、当時の主な移動手

段は鉄道です。列車も動かなくなりますし、国境線から離れた場所にいた人は身動きがとれなくて、ほとんど逃げられなかったわけです。

ですから、非常に限られた人たちしか逃げるができなかったということをまず理解してください。

リトアニアに逃亡してきたユダヤ人

では、リトアニアに逃げて来たのはどんな人たちだったのでしょうか。リトアニアに逃げて来た人の多くがポーランド東部から逃れてきました。

もう一度地図を見てください。リトアニアとポーランドは国境を接していますが、リトアニアと接しているのは東ポーランド、つまりソ連占領地域としか国境を接していないのです。ホロコーストが起きたドイツ占領地域とリトアニアは国境を接していない。東プロイセンはドイツ領ですからユダヤ人通行禁止です。ユダヤ人は東プロイセン経由では一切リトアニアに行くことができません。

当然、少人数ながらワルシャワからリトアニアに逃げて来た人もいるのですが、彼らがどこを通過して逃げて来たかという、ワルシャワからビアウィストクに列車で移動して、そこで列車を乗り換えてリトアニアのカウナスに行ったのです。こうやってワルシャワからビアウィストク経由でリトアニアに逃げられたのは、ソ連が東ポーランドに攻め込む 1939 年 9 月 17 日以前に脱出した人たちです。ソ連が侵攻すると列車も止まってしまうし、もう動けなくなってしまうわけですね。

ですから、ポーランドからの難民の 86%はソ連占領地域である東ポーランドから逃げて来ているのです。西ポーランドはリトアニアと国境を接していないので、本当に戦争の初期にしか行けませんでした。

ユダヤ教神学校(イエシバ)

実際にはポーランド東部の人たちも、先に述べたようにほとんど動くことができなかったわけですね。ソ連占領下の東ポーランドにいるしかなかった。では、どういう人たちが難民となって東ポーランドからリトアニアに逃れて来たのか。

実は、ポーランド東部にはユダヤ教の神学校がたくさんあったのです。

ユダヤ教の先生、宗教指導者をラビとかラバイとか言います。ユダヤ教には宗教指導者がいて、その指導者が信者グループを率いるわけです。そのユダヤ教の先生になる人たちが、イエシバと呼ばれる神学校で学んでいる学生たちです。イエシバは将来の宗教指導者・ラビを養成する学校です。

本来のユダヤ教では、お酒は飲まない。豚肉は一切食べてはいけません。鱈のいない魚も食べてはいけません。ウナギもエビ、カニ、タコも全部ダメです。イスラエルでは金曜日の夕方から土曜日の夕方まではシャバット(安息日)といって、すべての交通機関がストップして、しかも火を使っちゃいけないという決まりがありま

す。火を使っちゃいけないから内燃機関の自動車も運転してはいけません。電気のスイッチも押してはいけません。それぐらい厳しい宗教的な縛りがあるんですね。

ところが、アメリカに行くと改革派のラビがいて、平気で酒を飲むし、豚肉を食べる。女性のラビもいます。「いいじゃないか、お酒飲んだって」、「いいじゃないか、安息日にパーティやったって」、「自動車運転したって」というわけです。そういうユダヤ教徒もいます。

しかし、ポーランドのユダヤ教の人たちはオーソドックス＝正統派と呼ばれている人たちで、そういうことは一切してはいけません。非常に厳しく戒律を守り、正統派の修行を続けていこうという人たちだったのです。しかもユダヤ教のラビになる人たちは、今でもそうですけれども、一切働かない。男性は一切働かないのです。ただ、お祈りをして、勉強するのが彼らの仕事です。イスラエルでは男性も女性も必ず約 3 年間の徴兵義務があるのですが、神学校の学生たちには徴兵義務がないのです。

イエシバ(神学校)の学生たちは、本当に信心深い宗教一筋の人たちだったんですね。

宗教弾圧を恐れて東ポーランドを脱出

このユダヤ教の神学校が当時、東ポーランドにたくさんあったわけなんですけれども、そこがソ連に占領されたのです。

ところがソ連は共産主義の国です。「信教の自由」は認めない。「宗教は敵だ」、「宗教は人民を惑わすアヘンだ」というのが共産主義の主張で、ロシアの伝統的宗教であるロシア正教会をソ連は徹底的に弾圧しました。帝政時代から非常に強い影響力を持っていたロシア正教会の力を削ぎ落とし、その富を奪うことが実はスターリンの目的だったのですけれども、各地の教会が閉鎖され、宗教指導者はシベリア送りになりました。

ソ連の占領下でユダヤ教神学校も同じ運命をたどることが目に見えていたわけです。カトリック修道院やイエシバは閉鎖され、宗教指導者はスターリン粛清の対象になるに違いありません。ですから、敬虔なイエシバの神学生と教師たちは東ポーランドからの逃亡を決意して、当時は自由な独立国で戦乱のないリトアニアに逃げて来たんですね。

ほとんどの人は逃げなかったというか、逃げるのを諦めたのに、それでも逃げて来た人たちにはどうしても逃げなければならぬ理由があったのです。ストレルツォーフアスの研究によれば、第二次大戦の勃発以降、約 3 万人の難民がポーランドからリトアニアに流入したと計算しています。人口 3000 万人のポーランドからリトアニアに逃れて来たのはわずか 3 万人なんです(リトアニアは人口 200 万人の小国なので、3 万人の難民でも大変ですが)。

ユダヤ人難民の 86%は東ポーランドから流入

難民の内訳はポーランド人が 6 割、ユダヤ人が 4 割でした。逃げて来たポーランド人がどういう人たちだったかは分かって

おりませんが、想像するに、資本家とか経営者とか、共産主義になると弾圧されることが分かっている人が逃れてきたと考えられます。

ユダヤ人難民の 86%は東ポーランドから流入しています。男性 7 割、女性 2 割、子供 1 割でした。男性が圧倒的に多いということは、難民の多くがイエシバの学生・教師とその家族たちだったということです。

アメリカの改革派のユダヤ教では女性のラビが認められていますけれども、伝統的な正統派ユダヤ教では男性しかラビになれません。女性はラビの奥さんですね。ユダヤ教徒のラビは結婚してもいいのですが、彼らは信者に教え、祈るだけです。一切働かない。ですから、旦那を食わせて、子供を食わせて、生計を支えるのは女性なのです。そういう人たちが、東ポーランドからリトアニアに逃げて来た。

ナチスのホロコーストから逃げて来たのではなくて、彼らはスターリンから、共産主義から逃げて来たのです。

杉原のヴィザ発給へのプロセス

ところが、自由なリトアニアは 1940 年の 8 月にソ連に併合されてしまいます。

1939 年 9 月にモロトフソ連外務人民委員とリッベントロップ独外相が締結した独ソ不可侵条約の追加協定によって、リトアニアだけでなくバルト 3 国すべてがソ連の勢力圏に入ることになっていました。

1940 年 6 月半ばに、エストニア、ラトビア、リトアニアの 3 国にソ連軍が進駐して、それぞれの国で傀儡政権を作ります。ソ連軍を後ろ盾として選挙が行われ、これは推薦された候補者に賛成するかどうかを問うだけの信任投票なのですが、その結果リトアニアは社会主義共和国になることが決まります。そして、8 月初めに今度はリトアニア社会主義共和国がソ連最高会議に対して「リトアニアのソ連編入」を申請して認められる。こうして、リトアニアもラトビアもエストニアもソ連に併合されました。リトアニアを併合したソ連は、首都カウナスの各国在外公館へ 8 月中に退去するよう通告します。

自由な独立国だったリトアニアは、1940 年の 8 月初めに共産主義国家になってしまった。リトアニアで信教の自由が奪われることが誰にでもわかったわけです。東ポーランドの神学生たちが多くを占めるユダヤ難民たちは、7 月半ばにリトアニア議会が社会主義共和国宣言をすると、必死になってリトアニア脱出を模索します。

ソ連当局も難民の出国を認める

いまソ連の一部になってしまったリトアニア政府に出国条件を確認すると、政府＝つまりソ連当局は「出国先のヴィザとチケット代金を持っていれば出国してもよい」と回答します。なぜソ連がこう言ったかという、ソ連も難民を引き受けたくなかったのです。このままではリトアニアに滞留するポーランド難民すべてに

ソ連の市民権を与えなければならない。それは困る。だから、難民が自主的に出て行ってくれるんだったらよろしいとソ連当局は言ったのです。

一方、リトアニアの市民権を持っている人は強制的にソ連の市民権を取られました。リトアニア人は全員がソ連人になったわけです。ソ連人になるということは、移動の自由がなくなる。ソ連という国の中では、リトアニア共和国からたとえばモスクワに行くためには、当局の許可がなくては動けない。国内移動の自由がない社会、それがソ連でした。実は、1991 年のソ連崩壊までそうだったのです。

ただ、ソ連当局は、難民は引き受けたくないから、難民が自分の力でソ連を出国するのならば認めると言ったわけですね。

日本政府の通過ヴィザ発給条件

そこで難民たちは各国の在外公館を訪問してヴィザの発給を要請します。ところが、どこの国も難民を受け入れてくれない。

杉原も彼らに「日本政府は入国ヴィザを認めない」と言います。「難民は一切引き受けません」、「しかし、日本を通過するヴィザならば出すことができます」と言って、外務省が指示する通りに通過ヴィザの発給条件を提示しました。

日本政府の通過ヴィザ発給条件は、①最終目的地のヴィザを取得していること、②日本滞在と最終目的地までの旅費を準備できること、この 2 点です。移動のためのチケットを持っているか、チケットを購入できるお金を持ってないといけな。日本政府は難民が長期間日本に滞在することを拒否しました。難民の日本滞在はせいぜい 2～3 週間、船を待つ時間だけ滞在が許されるということでした。

「キュラソー・ヴィザ」

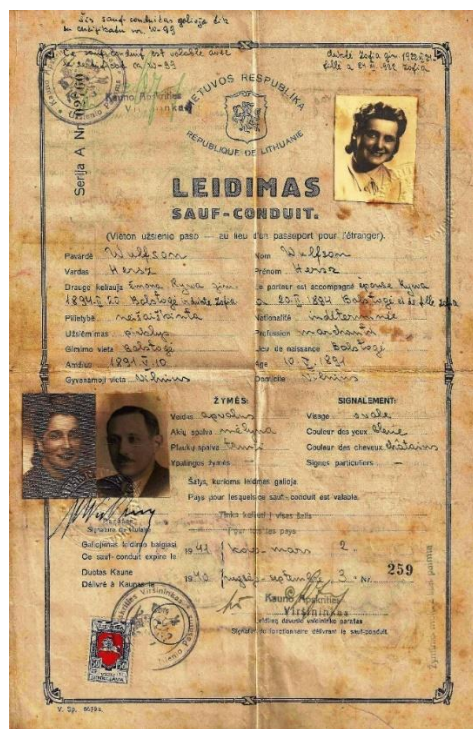
そこで考え出されたのが「キュラソー・ヴィザ」です。

キュラソーというのは、南米のベネズエラのちょっと北、カリブ海にある島で、当時のオランダの植民地です。実は、キュラソーはオランダのハワイなんです。今でもアムステルダムからキュラソーに直行便が毎日飛んでいて、たくさんのオランダ人が夏になると休暇をとってここに行きます。すごく立派なリゾートホテルがたくさん建っていて人気のスポットです。

1940 年の 5 月にオランダはドイツに占領されてしまったのですけれども、ドイツの影響力が及ばない唯一のオランダ植民地がキュラソーだったんですね。それで、在カウナスのオランダ領事代理ツヴァルテンデイクが「キュラソー島に上陸するのにヴィザは必要ない」という証明書を発給します。ヴィザが要らないということ、一見ヴィザのように見せるというテクニックを使って「キュラソー・ビザ」というものを考え出したわけです。

パスポート替わりの「安全通行証」

難民たちのほとんどはパスポートを持っておりません。彼らは農民か神学生であって、外国旅行するような生活をしていませ



Welfson Hersz の安全通行証 左が表、右が裏

© 2020 Florence and Laurence Spungen Family Foundation

んから、パスポートを持ってなかった。パスポートを持っていないのにどうやってヴィザを出すのでしょうか。パスポートの代わりに作られたのが Safe Conduct (安全通行証)と呼ばれる書類です。A4 くらいの大さの紙の表側に写真を貼って、「この人ですよ」と証明する。これをリトアニア政府やポーランド政府が発行しました。ポーランドはすでにドイツとソ連に占領されていましたが、亡命政権がイギリスにありました。ポーランド亡命政権の書類をカウナスのイギリス領事館が代理で発給していました。それで、安全通行証の裏に杉原ヴィザとキュラソー・ヴィザを押してもらったわけですね。

写真は、Welfson Hersz という女性の安全通行証です。これはリトアニア語で書いてあります。

左下に写真が 2 枚追加で付いているのは子供と夫です。そうすると 3 人になるわけですね。裏面に杉原のヴィザが押してあります。つまり、1 枚の安全通行証で杉原ヴィザを使って 3 人旅行できれば、その 3 人が助かる。だから「かける 3」なんです。

3 人の写真がついた安全通行証があったから、杉原幸子さんは「ヴィザ発給枚数×3」と計算したのですが、実際にはほとんどの Safe Conduct は写真 1 枚です。「かける 3」はあまりにも乱暴な計算なんですけれども、いまや「6 千人の命のビザ」が一人歩きしている状況です。

杉原、ソ連側とも交渉

もちろん、杉原はソ連側とも交渉して、ソ連側の出国条件を探っています。ソ連外務人民委員代理 Vladimir Dekanozov (リトアニア併合担当者) の方針は、①ソ連当局もユダヤ難民の国外

退去を希望する、②退去不能の難民にはソ連市民権を付与する、③ユダヤ難民は、国外退去か市民権取得かを 1941 年 1 月までに選択しなければならない、というものでした。

退去の条件は、安全通行証に日本の通過ヴィザが記されていること(ポーランド・パスポートは利用不可)、さらにカウナスからモスクワ経由ウラジオストク行き列車の乗車券を米ドルで購入することでした。

ポーランドはドイツとソ連に分割占領されて国が無くなったわけですから、ポーランドのパスポートは使えません。難民にとってさらにショックなのは、彼らが持っていたポーランド通貨が価値ゼロの紙切れになってしまったことです。戦争とはそういうものですね。戦争によって国家が占領されると、パスポートも通貨もすべて無効

になってしまうわけです。「列車のチケットが欲しかったら外貨で買いなさい」、「ポーランドの通貨ズオチはダメよ」、「リトアニアの通貨リタスもダメだよ」(正確には、リトアニア通貨はソ連通貨に交換できましたが、一定の限度があつてそれ以上は全額没収でした)ということで、ユダヤ難民は非常に困ってしまいました。

ただし、ユダヤ難民の中にも 2 種類います。資産家、ブルジョアの人たちは当然そういうことは織り込み済みで、外貨を持ってきたり、宝石・貴金属を持ってきましたから、チケットが買えました。しかし、イエシバ(ユダヤ教神学校)の教師と学生たちは、お祈りしかしない人たちですから、お金なんか持っていません。お金を持っていない人はチケットが買えません。ヴィザをもらっても、お金がない人は日本に来られないのです。

お金がないと逃げられない。どうしたらいいのでしょうか。というところで、これまでの「命のヴィザ」のストーリーで欠落していた非常に重要なポイントであるお金の話をさせていただきます。

JOINT (ユダヤ人救済資金分配委員会)

JOINT (ユダヤ人救済資金分配委員会)という欧州ユダヤ人救済のためのアメリカ民間組織がニューヨークにあります。アメリカに住むユダヤ人が中心になって、ヨーロッパで迫害されるユダヤ人を救出するために作られた組織で、第二次世界大戦が始まると各地に係官を派遣して救援資金を送っていました。

JOINT がリトアニアに派遣した担当者がモーゼス・ベッケルマン(Moses Beckelman)で、この人は後に JOINT の事務総長になるくらい能力の高い人でした。実は、私は今年の 5 月にニューヨークへ行ってモーゼス・ベッケルマンの文書を調査する予定だったのですが、新型コロナで行くことができませんでした。ですから調査が終わってないのですが、ほぼ分かっていることは、このモーゼス・ベッケルマンが「旅費はどうにかするからヴィ

ザを出してくれ」と杉原千畝と交渉して、ユダヤ難民たちの旅費支払いを約束したのだらうということです。そうでないとストーリーが繋がらないのです。つまり、杉原のヴィザだけでは助けられない。リトアニアからソ連、日本を通過して他の国にいくだけのお金がないと助けられないのです。

1941 年 1 月までに JOINT がモーゼス・ベッケルマンに、正確な数字は分かりませんが、1600 人分の旅費＝数十万ドルのお金を送金したことは確かです。当時は電子送金なんてありませんから、多分アメリカから船でドルの現金を運んだのだと思います(アメリカは 1941 年 12 月までドイツと国交を保っていた)。

このモーゼス・ベッケルマンという人物は、杉原のヴィザ発給リスト(2140 人)に名前が載っている唯一のアメリカ人です。彼は 41 年 2 月にリトアニアを離れて、他のユダヤ難民と一緒に杉原ヴィザで来日し、日本からさらに上海、南米へと渡っています。

杉原の決断

話をリトアニア議会が社会主義共和国を宣言した 1940 年 7 月にもどします。

杉原は 7 月 18 日にユダヤ人難民の代表と最初の接触をしています。イエシバ(神学校)の教師や学生たちです。彼らはキュラソー・ヴィザを見せて日本の通過ヴィザ発給を求めます。杉原はオランダ領事代理やソ連領事とも会っています。おそらくベッケルマンも「必ずアメリカからお金が届くからヴィザを出してくれ」と頼んだはずです。

日本政府・外務省の指示(①最終目的地の入国ヴィザ取得、②日本滞在と最終目的地までの旅費の所持)を厳密に守れば通過ヴィザの発給は認められません。が、ヴィザ発給を拒否するとユダヤ教神学校の難民たちは弾圧されシベリア送りにされてしまう。このままではかわいそうだ。共産主義ソ連の内情を知る杉原は、悩んだ末に、領事権限でヴィザ発給を決定したのではないかと現在の研究では考えられています。つまり、キュラソー・ヴィザを入国ヴィザと同等だとみなす。今は外貨を持ってなくても難民が日本に向かう途中でお金を受け取れるのであれば、旅費の所持も確認する必要はない。そこは領事権限で出せる。こう杉原は判断したわけです。

ただし、領事権限でヴィザを出したと言っても、日本の外務省は許可をしていません。

7 月 29 日に杉原は「命のヴィザ」の発給を開始します。8 月中に日本領事館を閉鎖するようソ連側から求められている中で、残る時間は 1 か月しかありませんでした。

ユダヤ人難民の来日に向けた混乱

1940 年の 8 月にユダヤ難民の第一陣がカウナスから日本に出発しました。

ソ連側の条件は、①日本入国ヴィザの保有、②外貨による旅行代金の前払いでした。しかし、実際には、ソ連内務人民委員部が国内移動許可証を発給しないと動くことができません。ソ連

のお役所仕事はものすごいものですから、なかなか発給してくれない。発給まで待っているしかないわけです。

カウナスで許可証を受け取って列車でモスクワに行く。モスクワに到着したら、次はまた移動許可証をもらうために待たされる。インツォーリストというソ連の国営旅行社からシベリア鉄道のチケットを購入して、ウラジオストクに向かう。多分、直通列車ではなくて、途中で列車を乗り替えたり、引込線で半日間止められたり、2 週間以上かけてようやくウラジオストクにたどり着いたようです。

そこでもまた同地の人民委員部で、船を待つ間の滞在許可証を取らなくてはなりません。しかも、今度はウラジオストクの日本総領事館が杉原ヴィザで来た難民の乗船資格を審査し始めます。日本の滞在資金、日本から先の渡航先へのチケットを持っているかどうか。不十分な場合は乗船不許可にします。ベッケルマンは神戸のユダヤ人協会に頼んで身元保証をしてもらい、難民を船に乗せるよう領事部と交渉します。

このようにして、1940 年 10 月から 41 年春にかけて、多くのユダヤ難民がウラジオストク経由で福井県の敦賀港にたどり着いたわけです。彼らは敦賀から神戸に向かいました。神戸ユダヤ人協会が宿泊先を紹介し、滞在費を支給して難民たちの受入に協力しました。

杉原ヴィザで来日したユダヤ難民は 2200 人～2300 人

神戸に来た難民の数は、1941 年 4 月末の神戸滞在中のユダヤ人 1700 名という数字が分かっています。けれども、41 年 4 月末までにアメリカや他の国に渡った人もかなりいますから、杉原ヴィザで来日した人たちは、私の計算では 2200 人から 2300 人ではないかと考えております。

ユダヤ難民のほとんどはポーランド国籍でした。当時の駐日ポーランド大使館の報告書では約 2300 名の難民が 1940 年秋から 41 年夏までの間にポーランドからシベリア経由で来日したと記されています。ロシア人の研究者がインツォーリストの文書を調査した結果、インツォーリストで列車チケットを買った人の履歴が約 2200 名分見つかっています。

ですから、杉原ヴィザで助けられたユダヤ人の数は 2200 人～2300 人というのが、私の計算するところですよ。

ユダヤ難民たちのその後

神戸に滞在していたユダヤ難民たちはその後どうなったか。アメリカのヴィザを持っていた人は別として、アメリカも難民は受け入れたくないわけですね。1931 年の大恐慌から続く不況で何千万人という失業者がいるのに難民なんか受け入れる余裕がない。難民に対してヴィザを出さない。しかし、キュラソーに行く人は一人もいないわけですから、困ってしまって、ベッケルマンは上海ユダヤ人協会に受入れを要請します。ところが、上海ユダヤ人協会もお金を持たない難民の受入れを拒否します。

行き詰っていたところで、1941 年 7 月に日本軍が南部仏印に

進駐し、アメリカ政府が対日経済制裁を発動して日米関係が悪化しました。神戸ユダヤ人協会の人たちはみんなアメリカに帰り、太平洋航路の往来も止まってしまいました。そこで日本政府は神戸に最後まで残っていたユダヤ人 900 名を強制的に上海に移送してしまったのです。そのほとんどがラビと神学生でした。上海のユダヤ難民たちは日中戦争の過酷な状況下で戦時中を過ごし、戦後、アメリカや南米、パレスチナなどに定住先を求めました。

杉原ヴィザで多くのユダヤ人が救われた

まとめておきますと、杉原が通過ヴィザを出したのは、ホロコーストからユダヤ難民を救うためではなかったのです。スターリンの共産主義の脅威から神学生たちユダヤ難民を助けるためだったということです。

戦後帰国した杉原は外務省から人員整理の名目で退職を強いられましたが、これが本省の命令を無視してヴィザを発給したという理由かどうかは判然としません。また、40 年 8 月に杉原が自らのポストを賭けてヴィザを発給したかどうか不明です。しかし、領事としての裁量権を最大限に活かして窮地に陥ったユダヤ人に通過ヴィザを発給した杉原の姿勢は人道主義の見地から高く評価できると思います。

ところがヴィザ発給時には想定していなかった事態が翌 1941 年夏に起こります。独ソ戦の勃発です。ドイツ占領下のリトアニアではユダヤ人の大半が虐殺されました。杉原の善意は、2 千数百名のユダヤ人をスターリンからだけでなく、結果としてホロコーストからも救ったわけです。「6 千人の命のビザ」は過大ですが、2 千数百名であっても杉原千畝が救出したユダヤ人の数は、27000 人以上の「有徳の人」の救出劇の中で十指に入る多さです。

補遺：質疑応答から

ポーランドからリトアニアに逃げてきた人たちの 4 割がユダヤ人で 6 割はポーランド人だと言いました。カトリック信者であるポーランド人が 6 割いたわけです。リトアニアのソ連併合後、彼らはどうなったのでしょうか。実は、彼らはどうしようもなくなって、ほとんどの人は仕方なく元のポーランドにもどったんですね。もどるのを拒否したのがユダヤ人神学生たちだったわけです。

ポーランド人難民の中には軍の将兵がいました。兵隊たちもポーランドにもどりました。ところが、ソ連占領下の東ポーランドでは、1940 年の 4 月～5 月に「カチンの森事件」(*註)が起きます。現在のベラルーシとロシアの国境近くの町スモレンスクの郊外でポーランド将兵約 2 万人がソ連軍に殺されました。このように、殺されてしまった人も多くいるようです。西ポーランドにもどった兵隊たちは、ドイツの捕虜収容所に入れられるのですが、これも劣悪な環境で収容者の 6 割以上が亡くなったと言われています。ですから、ポーランドからリトアニアに逃げてきて、再びポーランドにもどった人たちも酷い目に遭っています。

ソ連併合下のリトアニアでも、共産主義ソ連に反抗する人や政治家、芸術家、宗教者など影響力のある人はシベリアの収容所送りにされてしまったわけです。しかし、シベリア送りにされた人は結果としてホロコーストから助かった面もあります。ソ連の強制収容所で亡くなった人もいますが、その死亡率は 10%ぐらいです。しかしリトアニアに残ったユダヤ人はドイツ占領下で 9 割以上殺されたわけです。ですから、本当に何が幸いするか分からないのですよね。

そういう意味では、ユダヤ難民もリトアニア人もポーランド人もみんな酷い目に遭ったという、第二次大戦下のポーランドとリトアニアの状況が今日明らかになっています。(了)

*註:カチンの森事件

1939 年 9 月のソ連軍による東ポーランド占領で捕虜になったポーランド軍将兵 20 数万人はソ連の捕虜収容所に入れられたが、そのうち 2 万人以上が 1940 年 4 月～5 月にスモレンスク郊外で銃殺され埋められた。独ソ戦中の 1943 年 2 月にドイツ軍が発見してソ連軍の虐殺を宣伝したが、ソ連側は逆にドイツ軍の犯罪だと反論した。戦後も米ソ冷戦下で真相究明は進まず、ようやくゴルバチョフ時代の情報公開と冷戦の終結によってソ連が虐殺を認めた。

<関連図書>

『杉原千畝と 20 世紀の日本・世界・愛知』

編集・発行：愛知県教育委員会／監修：稲葉千晴／A4判 49 頁ソフトカバー／非売品

*愛知県の中学社会科副教材。3 年生全員に配布されました。

『ヤド・ヴァシェームの丘に～ホロコーストからユダヤ人を救った人々』

著者：稲葉千晴／発行：成文社／四六判 160 頁ソフトカバー／定価：1500 円＋税

*第二次大戦下のヨーロッパ、ナチス・ドイツから命がけでユダヤ人を匿いその逃亡を助けた人たちの 32 の事例がコンパクトにまとめられています。

『第二次大戦下のリトアニアの難民と杉原千畝～「命のヴィザ」の真相』

著者：シモナス・ストレルツォーバス／翻訳：赤羽俊昭／発行：明石書店／四六判 304 頁ハードカバー

定価：2800 円＋税

*杉原千畝が「命のヴィザ」を発行したのは 1940 年 8 月のリトアニア・カウナス。1938 年 3 月ドイツによるオーストリア併合、39 年 9 月ドイツとソ連によるポーランド分割、40 年 7 月ソ連によるバルト 3 国併合、この流れの中でポーランドとリトアニアで何が起こっていたかを詳述し、「命のヴィザ」の背景を読み解いています。

JICからお知らせ

JIC インフォメーションの電子化 メールでの配信について

JIC インフォメーションは 1986 年の発刊以来、本号で通算 211 号となります。

この間さまざまな困難がありましたが、多くの方々の温かいご支援・ご協力を得て、日本とロシアを中心とする市民交流の情報誌として発行を続けてまいりました。

これまで紙印刷の本誌を読者の皆さまに郵送または宅配メール便で送ると同時に、ホームページに掲載してその URL を電子メールで送るメルマガ形式で JIC インフォメーションをお届けしてきましたが、今年の 4 月号以降は電子メールでの配布を基本として、紙印刷のインフォメーションの郵送を取り止めさせていただきます。

引き続き JIC インフォメーションをご希望で、まだメールアドレスの登録をいただいていない方は、2 月 28 日までに以下のアドレスに「JIC インフォメーション希望」とお知らせいただきたく、お願いいたします。

⇒ アドレス : jictokyo@jic-web.co.jp

JIC 国際親善交流センター

◆◆編集後記◆◆

▼昨年 11 月末から始まった新型コロナ第3波の感染拡大が止まりません。政府はついに1月7日、二度目の緊急事態宣言を東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県に発出しました。さらに1月9日、大阪、京都、兵庫など5府県の知事も緊急事態宣言の適用を政府に求めました。▼まったく新年から散々な幕開けですが、しかし、「コロナ後には、これまでできなかったことを思い切りやるぞ！」という気持ちで、将来の準備と今やるべきことに注力したいと思います。▼上記告知のとおり、JIC インフォメーションは次号(4月号)から全面的にメール配信に切り替えます。それに先立って、本年1月10日発行の210号(恒例の「JIC スタッフ新年あいさつ」を掲載)は印刷せず、ホームページ掲載のみとしました。すでに昨年10月にロシア映画祭報告・特別号をWEB版で出しておりますが、今後、12月のロシア留学セミナー報告特集号などもWEB版で発行していく予定です。▼JIC はまだまだへこたれずに頑張ります。よろしくご支援のほど、お願いいたします。(F)

＊ ＊ JIC のロシア語留学・研修 ＊ ＊

30 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 30 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 3,800 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ことや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様のバックアップのために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学4月生・募集中



オンライン
相談 受付中!

期間：2021年9月1日より10ヶ月

締切：2021年6月15日

モスクワ国立大学 795,000 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 790,000 円(授業料 10 ヶ月)

ゲルツェン教育大学 744,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 352,000 円(授業料 10 ヶ月)

ミンスク国立言語大学 344,000 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などがかかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。

お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 9:30-18:00 03-3355-7294

大阪デスク 平日 9:30-16:00 06-6944-2341

※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください

外国人のためのロシア語検定(TPKH) 練習アプリのご案内

JIC が提携するモスクワのロシア語センター GRINT が外国人のためのロシア語検定(TPKH)の初級・基礎・第1レベル(大学入学の最低レベル)に対応する練習問題と模擬テスト、合格のための練習アプリを発表しました。

現在、AppStore および Google Play で無料ダウンロードできます。できるだけたくさんの方のロシア語学習者の皆さんに使っていただき、是非、使い勝手や改善点、感想などを知らせてほしいとのこと。是非、ご協力ください。

アプリの詳細(英語) <http://russian-language.ru/>
アプリは SEMESTERRUS で検索、ダウンロード可です。